

道徳科学習指導案

指導者 清水 弥生

- 1 日 時 平成 29 年 12 月 1 日 (金) 3 校時 (10:30～11:15)
- 2 学年・組 第 2 学年月組 25 名
- 3 主 題 名 家族のために <内容項目 家族愛・家庭生活の充実 C (13)>
- 4 教 材 名 ぼくのうちの夕はん (文溪堂)
- 5 ね ら い お父さんとお米とぎの練習をし、やる気になったまさおの気持ちを考えることを通して、父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする道徳的心情を育てる。

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

生まれて初めて所属する集団が家族であり、児童の道徳性を育てる基盤は家族にあるといえる。児童にとって、家族は愛情に包まれたもっとも心身の安定を得られる場である。また、自分を取り巻く家族へ尊敬と感謝の気持ちを育み、家族の一員として、積極的に家族の役に立とうとする態度を養う場でもある。

そこで、日ごろの父母、祖父母の様子を知ることから、家族のありがたさについて考えさせ、感謝する気持ちや、親愛の情を育む機会としたい。さらに、家族の中での自分の立場や役割を知り、家の手伝いを行って、積極的に家族と交わろうとする道徳的心情を育てることが大切である。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学校で進んで教師や友達の手伝いをする事ができる児童が多い。手伝い自体を楽しんでいる場合もあるし、「ありがとう。」と感謝されるのが嬉しくて手伝いをする場合もある。

一方で、手伝いが嫌いな児童も数名おり、手伝いを嫌がる児童は、学校生活の様々なことにも前向きに取り組めず、自分本位で辛抱ができない傾向が見られる。そのような児童には、「手伝ってくれたら嬉しいな。」などと教師から声をかけ、「手伝ってくれてありがとう。助かったよ。」と心を込めて褒め、人の役に立つことに喜びがもてるように働きかけている。

1 学期に行った道徳「とつぜんの雨ふり」の授業の感想で、「今まであまりお手伝いをしていなかった。これからはお手伝いしたい。」という感想が多かったので、その後の実態を把握するため、9 月に手伝いについてアンケートを行った。結果は、家の手伝いを毎日する児童は 13 人、時々する児童が 9 人、あまりしない児童が 3 人で、家の手伝いをしている児童が増えたことがわかった。手伝いをする理由は、「お家の人が喜ぶから。」「助けたいから。」「褒められるから。」「自分がすると決まっているから。」というものであった。一方、手伝いをしない理由としては、「頼まれないから。」「面倒だから。」というものであった。学校で手伝いを嫌がる児童は、家でも手伝いをあまりしていないことがわかった。

低学年のこの時期に、自分と家族との結びつきについて考えさせ、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを感じられるような心情を育てることが大切だと考える。家族愛が、人間を愛する基盤となり、様々な集団とのかかわりの基盤を築くことになる。

本教材を通して、家庭にも積極的に働きかけ、手伝いという行為を通して、家族を敬愛し、進んで家族の役に立とうとする道徳的心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、まさおの心の動きを共感的に追うことにより、「家族のために進んで行き、家族の役に立とう。」という気持ちを持たせる教材である。

まさおは、お母さんが帰ってくるまで好きな漫画を読んでいたにも関わらず、「夕飯のお手伝いをしてほしい。」と頼まれると宿題を理由に断る。また、食事中に新しくお米とぎのお手伝いを進められても、「難しいから。」と断る。初めは、「面倒だ。」「難しいから無理だ。」と思っていたお手伝いであったが、お父さんとの練習や、お父さんとお母さんの言葉により、「明日からお手伝いしよう。」という気持ちになる。

お父さんと練習中のまさおの気持ちや、練習前後の気持ちの変化を捉えさせることを通して、家族の一員として、お手伝いをすることで積極的に家族と交わろうとしたり、家族の役に立つ喜びを実感したりできるようにしたい。

7 考えを深め合う授業の工夫

- ・道徳ノートを活用し、一人一人が自分の考えを持てるようにする。
- ・補助発問により、ねらいに迫れるようにする。
- ・米とぎの映像を見せることで、米とぎの難しさなどを想像させ、まさおの気持ちに寄り添いやすくする。
- ・一人一人に家族からの手紙を用意することで、自分の生活を振り、父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする気持ちを持つことができるようにする。

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問と予想される児童の反応	教師の働きかけ	準備物・評価
導入	お手伝いをした経験を発表する。	一斉	家でどんなお手伝いをしたことありますか。 - 洗濯物を干した。 - 買い物に行った時に荷物を持った。	家でのお手伝いを想起させ、教材への興味付けを図る。	
展開	教材を読む。	一斉		「ぼくのうちの夕はん」の紙芝居を読む。	紙芝居
	お手伝いを断った時のまさおの気持ちを考える。	一斉	「だめだよ。」と言ったまさおはどんな気持ちでしたか。 - 嫌だな。 - 面倒くさい。 - やりたくない。 - 宿題ができていないから困る。	- 両親が共働きで忙しいことや、やらなくてはいけない宿題をやらずに漫画を読んでいたことを押さえる。 - お手伝いを断るまさおの気持ちに共感させる。	挿絵等
	まさおが、「明日から、お米をとぐのは、ぼくにまかせてね。」と言った気持ちを考える。	一斉 個別 一斉	「明日から、お米をとぐのは、ぼくにまかせてね。」と元気よく言ったまさおはどんな気持ちでしたか。 - もっと褒めてほしい。 「ありがとう。」と言われて嬉しい。 - 喜んでもらえて嬉しい。 - お母さんの大変さがわかったから、これからはもっと助けたい。 - お家の人が助かるように自分ができることをしたい。	- 米とぎの様子を映像で見せ、米とぎの練習を想像させる。 - 米とぎの難しさや、お母さんの大変さに気付かせる。 - 補いつも米とぎをしているのはだれですか。 - 補お父さんとの練習でまさおはどんなことを考えましたか。 - 役割演技を通して、まさおの気持ちを考えさせる。	- 発問カード - 映像 - お面 ※お母さんのためにお手伝いをしようとするまさおの気持ちに気付くことができたか。 ＜道徳ノート・発言＞
	お手伝いについて考える。	一斉	お手伝いをすると、どんな良いことがありますか。 - 自分も家族も幸せになる。 - 家族みんなが嬉しくなる。 - 家の人が助かって喜んでくれる。 - 自分もできることが増える。	お手伝いをすることで家族が喜んだり助かったりしていることに気付かせ、自分と家族との結びつきを考えさせる。	
終末	振り返りを書き、交流する。	個別 一斉	今日の学習で、学んだこと、気づいたことは何ですか。	家族からの手紙を一人一人に渡し、家族のために進んで手伝いをしようという気持ちを高めてから、振り返りを書かせる。	家族からの手紙 ※父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする気持ちを持つことができたか。 ＜道徳ノート・観察＞

9 板書計画

だい二十四回 道とく

ぼくのうちの夕はん

挿絵

おとうさんとの
れんしゅう

挿絵

挿絵

挿絵

挿絵

「あしたから、
お米をとぐのは、
ぼくにまかせてね。」

お手つだい

ふりかえり

10 道徳ノート

だい二十四回

『ぼくのうちの夕はん』 十二月 一日

道とくノート

考えてみよう

名詞)

◎「あしたから、お米をとぐのは、ぼくにまかせてね。」と元氣よく言った
まさおは、どんな気持ちでしたか。

ふりかえり

今日のへんきよくて思ったことを書きまわそう。

◎しっかりと考えることができた。

◎友だちの考えを聞くことができた。

◎いぶんの考えを書きつけることができた。

😊😊😊
😊😊😊
😊😊😊